

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和 7 年 4 月 ～ 6 月実 績

令和 7 年 7 月 ～ 9 月見通し

福井県商工会連合会

I 景況調査の概要

- 1 調査目的

この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
- 2 調査方法

経営指導員による訪問面接調査
- 3 対象地区

あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
- 4 対象企業数

165企業（1商工会15企業）
- 5 回答企業数

165企業（回答率100%）
- 6 調査対象期間

令和7年4～6月期実績及び令和7年7～9月期見通し
- 7 調査時点

令和7年6月1日（日）
- 8 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率（%）
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	49	29.7%	49	29.7%	100.0%
サービス業	54	32.7%	54	32.7%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9 DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

DI（数式）＝（上昇企業数－低下企業数）÷ 回答企業数 × 100

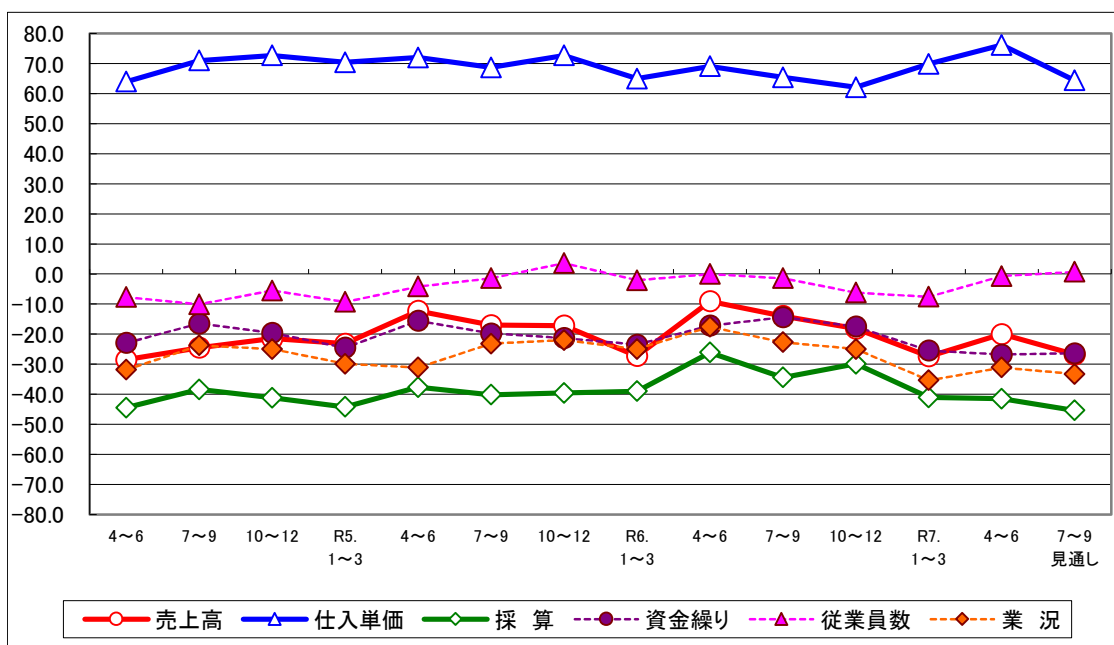
10 分析執筆者 仁愛大学人間学部 特任教授、福井県立大学 名誉教授 南保 勝 氏

全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

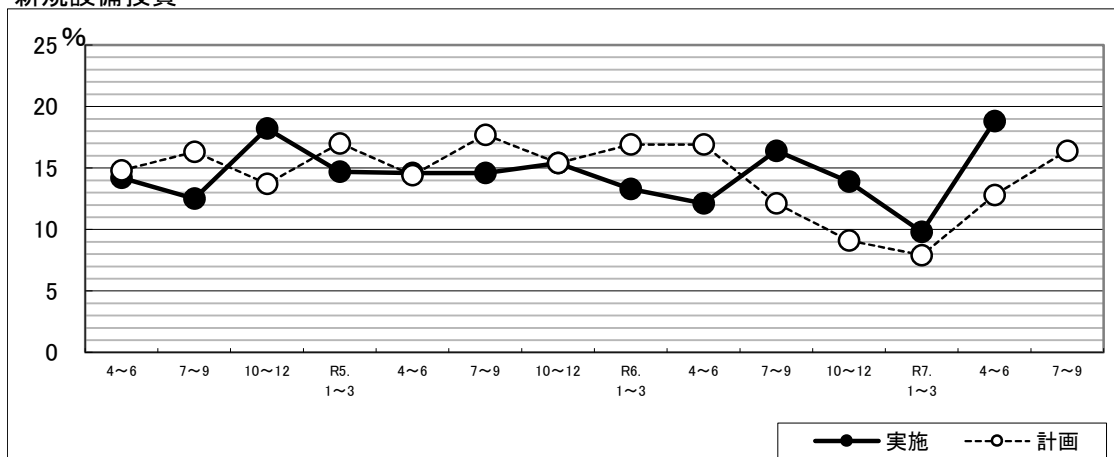
景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
4～6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7～9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10～12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1～3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4～6	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
7～9	▲ 17.0	68.7	▲ 40.2	▲ 19.8	▲ 1.4	▲ 23.2
10～12	▲ 17.2	72.7	▲ 39.6	▲ 21.3	3.6	▲ 22.0
R6.1～3	▲ 27.3	65.0	▲ 39.0	▲ 23.5	▲ 2.1	▲ 25.0
4～6	▲ 9.1	69.1	▲ 26.1	▲ 17.2	0.0	▲ 17.6
7～9	▲ 14.0	65.4	▲ 34.4	▲ 14.4	▲ 1.4	▲ 22.7
10～12	▲ 18.2	62.1	▲ 29.9	▲ 17.5	▲ 6.2	▲ 25.0
R7.1～3	▲ 27.4	69.9	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 7.6	▲ 35.4
4～6	▲ 20.0	76.2	▲ 41.5	▲ 26.8	▲ 0.7	▲ 31.1
7～9見通し	▲ 26.8	64.4	▲ 45.4	▲ 26.4	0.7	▲ 33.3

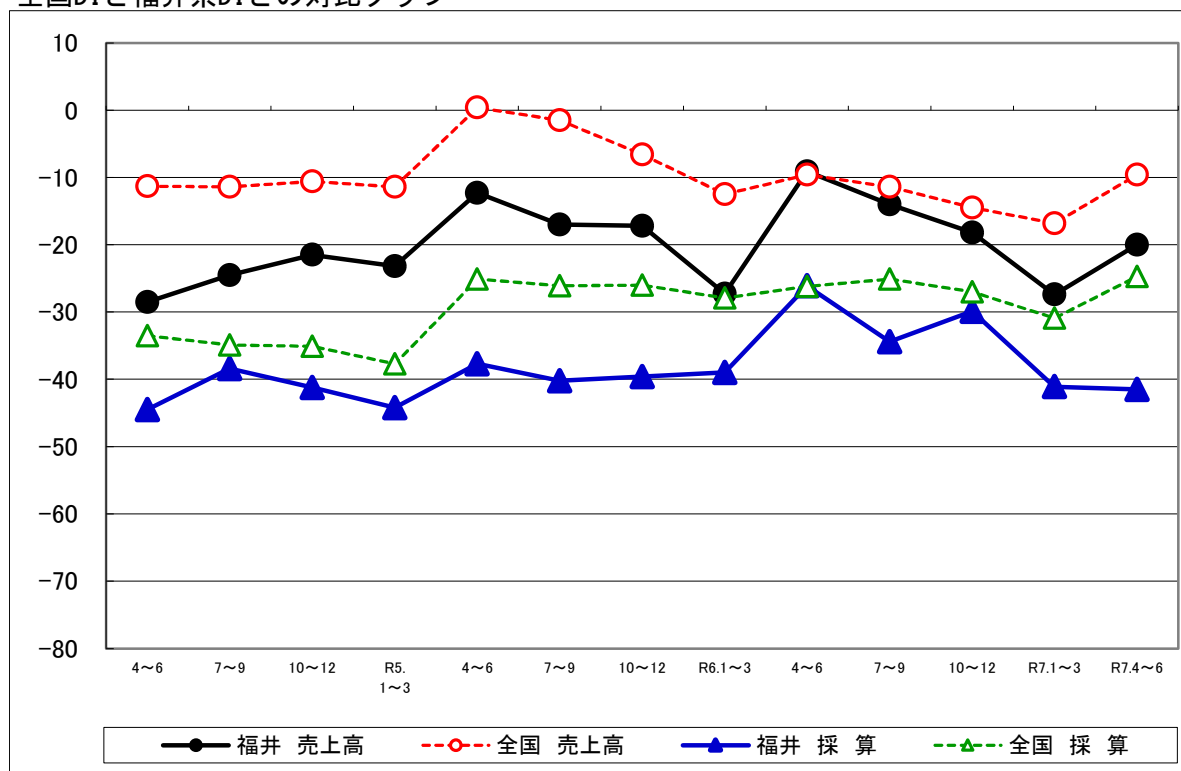
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R7年4～6月期の福井県経済を概観すると、個人消費は一部で新幹線開業効果の反動や物価高による買い渋りなどの影響がみられるものの、総じてみれば堅調な動きを維持している。一方、生産活動は、主力の電子部品・デバイスやプラスチック製品などで持ち直しているが、繊維製品の衣料分野での足踏みや、化学、非鉄金属などの動きが悪く、操業度合いに業種間でバラツキがみられるなど、やや精彩を欠く展開が続いている。

先行きについては、雇用・所得環境が改善する中、各種の政策効果もあって、緩やかな回復が期待されるものの、米国の通商政策の影響による下振れリスクや、物価上昇圧力による個人消費の停滞も懸念され、先行きの警戒感はぬぐえない。

こうした中、今回の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち3項目で改善、3項目で悪化となった。県内企業の景況は売上高の上昇から業況の改善が進んだものの、仕入単価の上昇から採算性が低下するなど、まだまだ厳しい状況にあることがうかがえる。項目ごとのDI値をみると、売上高が前期▲27.4→今期▲20.0、仕入単価（逆指数）が前期69.9→今期76.2、採算が前期▲41.1→今期▲41.5、資金繰りが▲25.5→今期▲26.8、従業員数が前期▲7.6→今期▲0.7、業況が前期▲35.4→今期▲31.1となっている。

また、先行き（R7年7～9月期）についても、改善と悪化が同数の3項目となっており、景況感の大きな改善はなかなか厳しいことがうかがえる。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国は売上、採算ともに改善傾向となったが、福井県は採算の伸びが悪く出ており、地方圏における業況の厳しさがうかがえる。

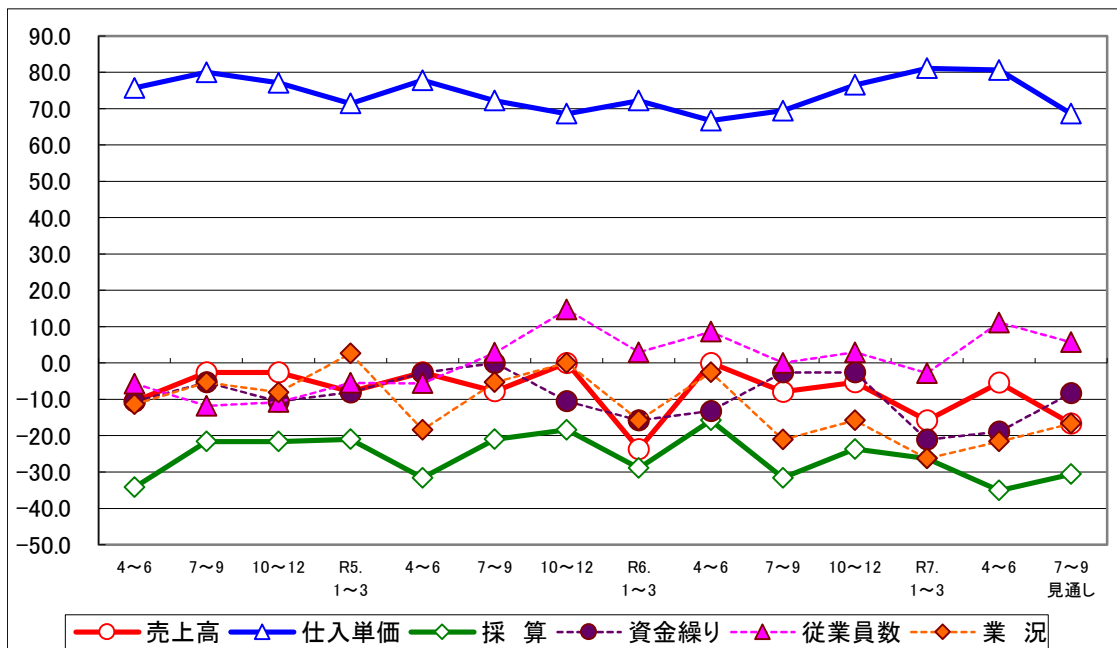
そのほか、今期の新規設備投資については、実施した企業が18.8%となり、前期（1～3月期：9.8%）より9%ポイント増加するなど、幾分の改善がみられた。また、来期も全体の16.4%の企業で何らかの投資計画を保有しており、今回同様の投資マインドが予想される。

製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

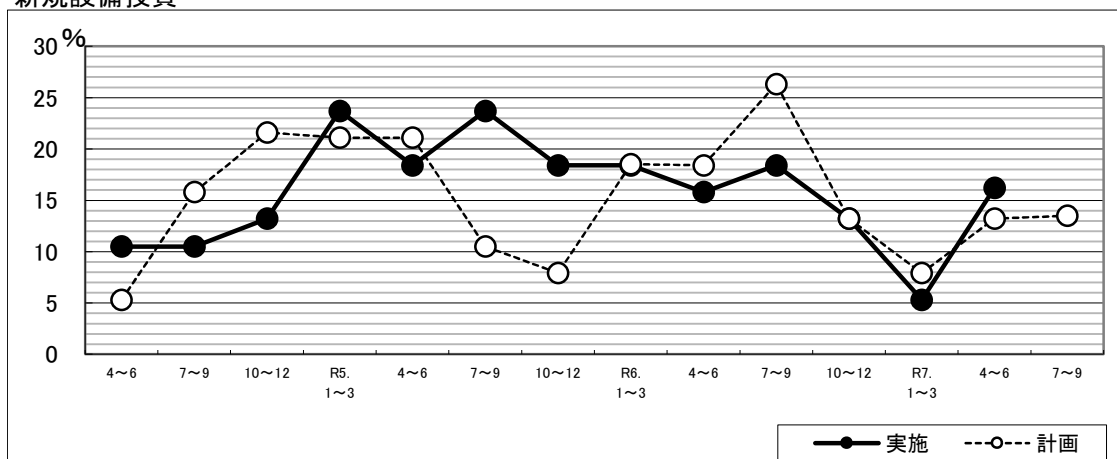
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
4～6	▲ 10.5	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7～9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10～12	▲ 2.6	77.1	▲ 21.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1～3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4～6	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
7～9	▲ 7.8	72.2	▲ 21.0	0.0	2.8	▲ 5.3
10～12	0.0	68.6	▲ 18.4	▲ 10.5	14.7	0.0
R6.1～3	▲ 23.7	72.2	▲ 28.9	▲ 15.8	2.9	▲ 15.8
4～6	0.0	66.7	▲ 15.8	▲ 13.2	8.6	▲ 2.6
7～9	▲ 7.9	69.4	▲ 31.6	▲ 2.6	0.0	▲ 21.1
10～12	▲ 5.3	76.5	▲ 23.7	▲ 2.6	2.9	▲ 15.8
R7.1～3	▲ 15.8	81.1	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 2.8	▲ 26.3
4～6	▲ 5.4	80.6	▲ 35.1	▲ 18.9	11.1	▲ 21.6
7～9見通し	▲ 16.7	68.6	▲ 30.6	▲ 8.3	5.7	▲ 16.7

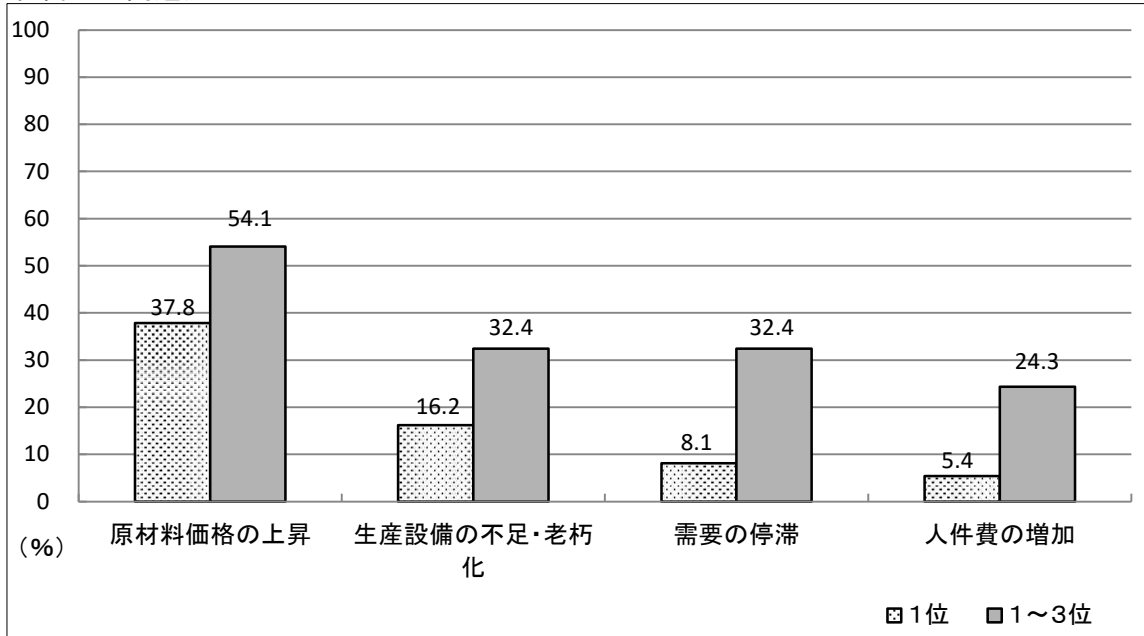
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・新幹線開業効果は続いているものの、原材料諸経費高のための商品値上げにより、売行きに陰りがみられる。更なる商品の磨き上げ魅力UPが必要。

・一軒一軒のお得意様の状況も様々で見極めながら次の一手を考えていくよう努力しているところです。そのため、新商品の開発と挑戦と努力は日々の仕事とは別に取り組んでいるところです。

・米国の関税問題で受注が落ち込んできている。得意先も輸出が止まり商売が停滞していると聞く。今までは価格の転嫁ができていたが、今後は逆に値下げ要請が出ている不安がある。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、主力の電子部品・デバイスでスマートフォン需要を中心に持ち直しているほか、プラスチック製品も産業資材分野が復調しており、全体でも持ち直している。また、眼鏡枠なども生産が回復している。ただ、繊維産業では、非衣料向けが堅調ながら、衣料向けは弱含んでおり、全体では足踏みの状況が続いている。その他、化学産業も合成樹脂の化学製品を中心に弱含んでおり、アルミ圧延などの非鉄金属製品も持ち直しの動きに一服感がみられる。

こうした中、今期（R7年4～6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち5項目で改善傾向となっている。ただ、本格化する米国との通商問題やエネルギー価格の上昇、仕入れコストの上昇などを考慮すると、いまだ楽観は許されない状況にあることがうかがえる。ちなみに、項目別のDI値をみると、売上高が前期▲15.8→今期▲5.4、仕入単価（逆指数）が前期81.1→今期80.6、採算が前期▲26.3→今期▲35.1、資金繰りが前期▲21.1→今期▲18.9、従業員数が▲2.8→11.1、業況が前期▲26.3→今期▲21.6となっている。また、先行き（R7年7～9月期）についても、DI値6項目中4項目が改善予想となっており、先行きへの期待感を覗かせている。

一方、新規設備投資の状況については、設備投資を実施した企業が16.2%あり、前期（1～3月期：5.3%）を10.9%ポイント上回っている。先行き（R7年7～9月期）については、何らかの投資を予定する企業が13.5%みられ、今期とほぼ同様の投資マインドのまま推移することが予想される。

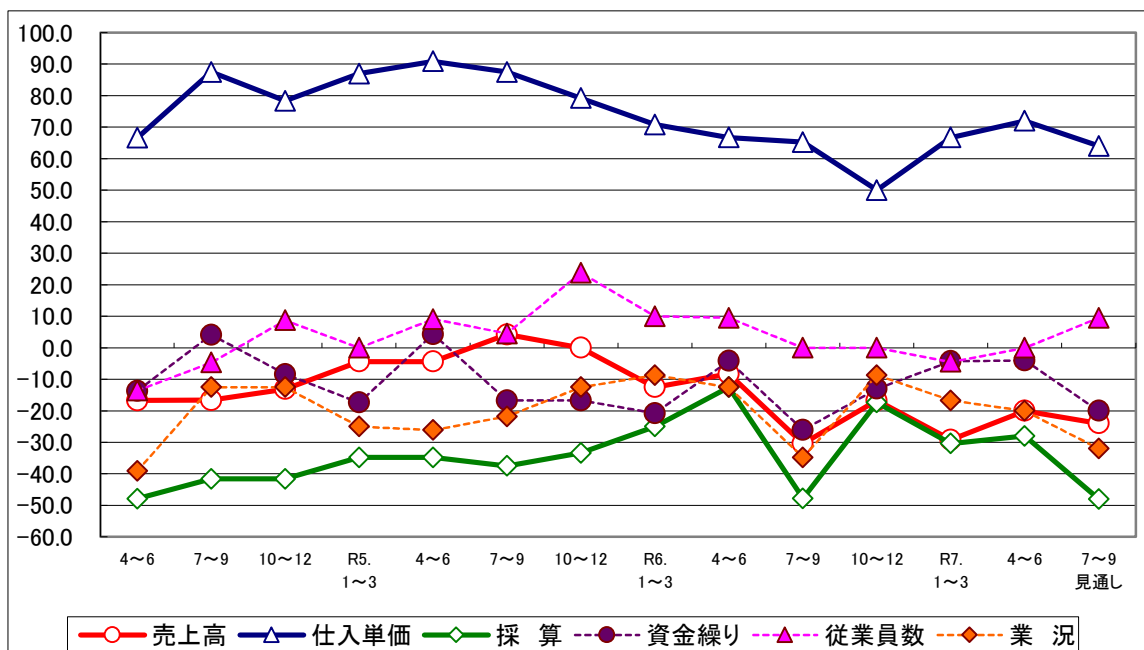
最後に、経営上の問題点については、「原材料価格の上昇」への指摘が最も多く、37.8%（1位～3位に挙げた企業54.1%）を占めた。その他、「原材料諸経費の値上げによって売れ行きに限りが見られる」「米国の関税問題で売れ行きが落ち込んでいる」「今後は受注先から値下げ要請があることが考えられる」など、悲観的な見方が多かった。

建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

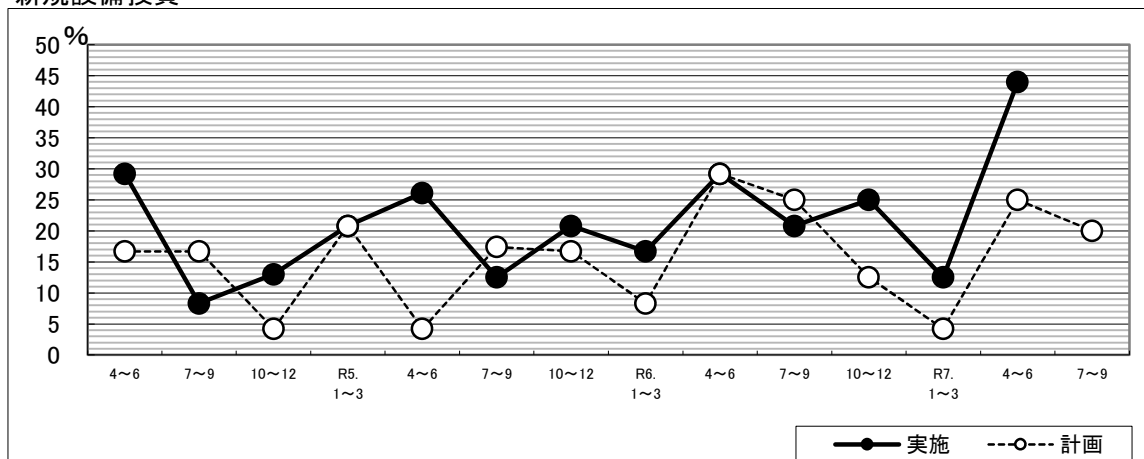
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
4～6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7～9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10～12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1～3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4～6	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
7～9	4.2	87.5	▲ 37.5	▲ 16.7	4.5	▲ 21.8
10～12	0.0	79.2	▲ 33.4	▲ 16.7	23.8	▲ 12.5
R6.1～3	▲ 12.5	70.8	▲ 25.0	▲ 20.8	10.0	▲ 8.7
4～6	▲ 8.3	66.7	▲ 12.5	▲ 4.2	9.5	▲ 12.5
7～9	▲ 30.4	65.2	▲ 47.8	▲ 26.1	0.0	▲ 34.8
10～12	▲ 16.7	50.0	▲ 17.4	▲ 13.0	0.0	▲ 8.7
R7.1～3	▲ 29.2	66.7	▲ 30.4	▲ 4.3	▲ 4.5	▲ 16.7
4～6	▲ 20.0	72.0	▲ 28.0	▲ 4.0	0.0	▲ 20.0
7～9見通し	▲ 24.0	64.0	▲ 48.0	▲ 20.0	9.5	▲ 32.0

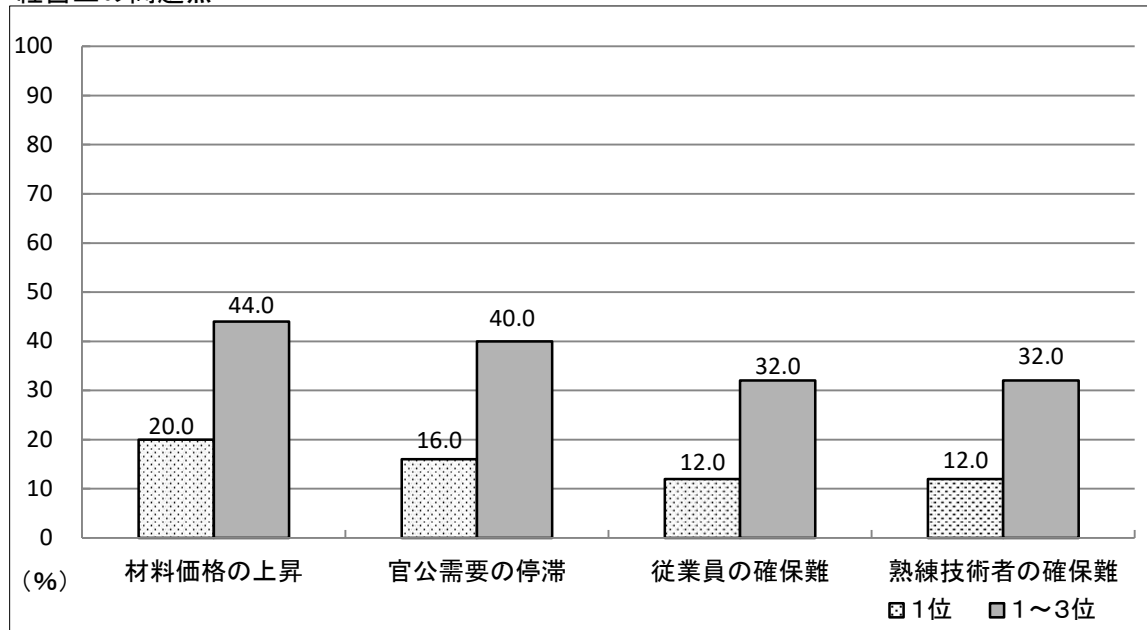
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・新幹線関連建設工事や付随工事の終息に伴い、県内の公共・民間工事は激減している。今まで取引の無かった工務店への営業などにより受注確保を目指しているが、なかなか参入は難しく、先行きは暗い。
 ・食費など生活必需品の値上がりで、住宅にかかる予算が無くなり、建築への需要が落ち込んでいる。
 ・深刻な人材不足に加えて好況な官庁需要を見込み、県外の企業によるM&Aや支店進出が進んでいる。競争の激化と人手不足により、地場企業の今後の経営に対する不安定要素が増大していくと考える。

建設業の景況

福井県内におけるR7年4～6月期の建設需要をみると、公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）で、請負金額が累計694億40百万円の前年同期比0.4%の増加、発注件数では同817件の同7.3%減となっている。主な発注者別でみると、市町村関連工事が279億91百万円の前年同期比82.3%増となったものの、県関連工事は124億03百万円の同24.3%減であった。そのほか国関連工事は156億51百万円で、同28.6%の減少となっている。

一方、住宅投資については、R7年4～5月の累計で、前年同期比50.3%減の335戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比47.3%減の198戸、貸家が同57.0%減の101戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰や人手不足などから厳しい経営環境を強いられている。

ただ、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち改善した項目が4項目となり、業界としての強気な姿勢が見て取れる。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲29.2→今期▲20.0、仕入単価（逆指数）が前期66.7→今期72.0、採算が前期▲30.4→今期▲28.0、資金繰りが前期▲4.3→今期▲4.0、従業員数が前期▲4.5→今期0.0、業況が前期▲16.7→今期▲20.0となっている。また、先行き（R7年7～9月期）についても、改善予想が2項目にとどまり、依然厳しい経営環境が続くものと思われる。

一方、今期の新規設備投資については、設備投資を実施した企業が44.0%あり、前期（1～3月期：12.5%）を31.5%ポイント上回っている。先行き（R7年7～9月期）については、何らかの投資を予定する企業が20.0%みられ、今期ほどではないが、そこそこの投資マインドのまま推移することが予想される。

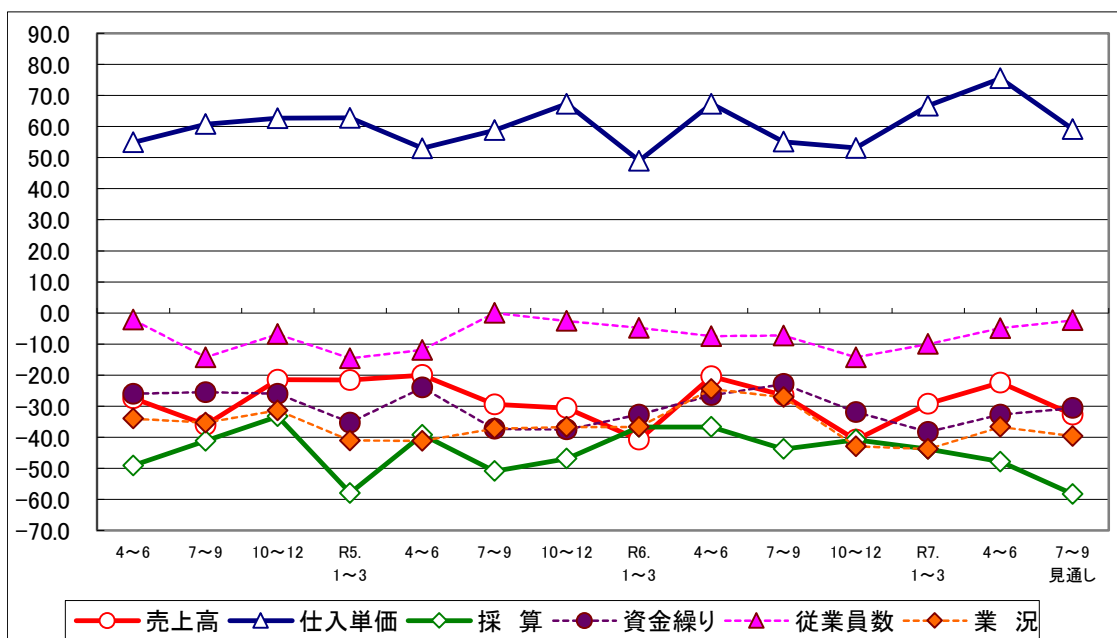
最後に、経営上の問題点については、「材料価格の上昇」が最も多く20.0%（1位～3位に挙げた企業44.0%）を占めた。個別の見解としては、受注の減少、人財不足など、悲観的な見解が目立っている。

小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

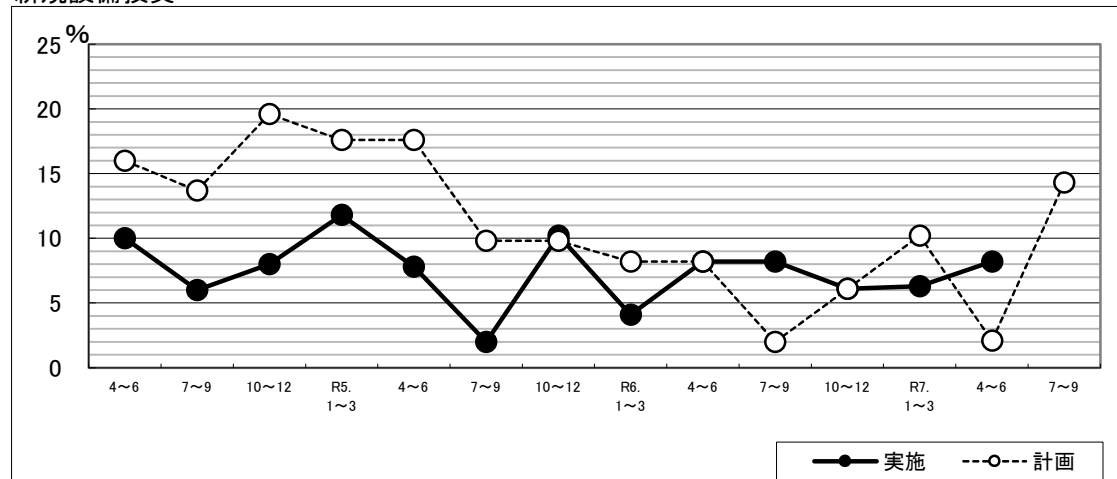
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
4～6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7～9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10～12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1～3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4～6	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
7～9	▲ 29.4	58.8	▲ 50.9	▲ 37.3	0.0	▲ 37.2
10～12	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 37.5	▲ 2.6	▲ 36.7
R6.1～3	▲ 40.8	49.0	▲ 36.7	▲ 32.7	▲ 4.8	▲ 36.7
4～6	▲ 20.4	67.3	▲ 36.7	▲ 26.5	▲ 7.5	▲ 24.5
7～9	▲ 26.5	55.1	▲ 43.8	▲ 22.9	▲ 7.3	▲ 27.1
10～12	▲ 40.8	53.1	▲ 40.8	▲ 31.9	▲ 14.3	▲ 42.9
R7.1～3	▲ 29.2	66.7	▲ 43.8	▲ 38.3	▲ 10.0	▲ 43.8
4～6	▲ 22.4	75.5	▲ 47.9	▲ 32.7	▲ 4.9	▲ 36.7
7～9見通し	▲ 32.7	59.2	▲ 58.3	▲ 30.6	▲ 2.4	▲ 39.6

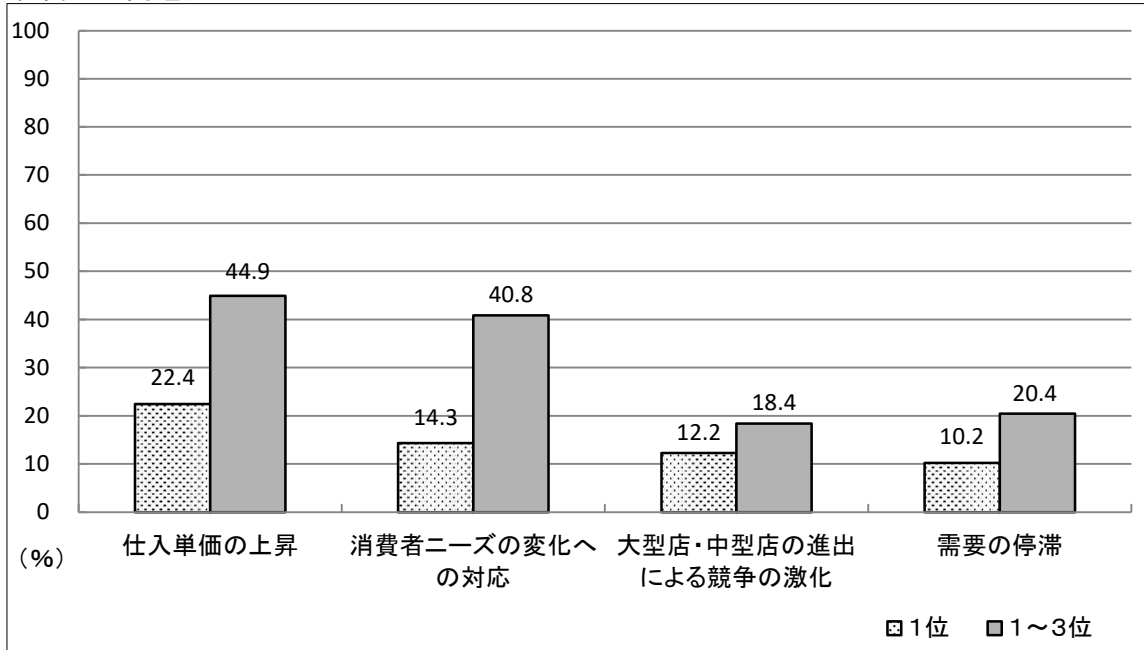
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・物価高対策等の補助金は元売りが恩恵を受ける。当社の様な小売業者は在庫や市況に応じて販売価格を引き下げていくので、売り側からすると必ずしも良い補助金とは言えない。
- ・売上は伸びているものの、仕入額も増加している状況である。また、賃上げによる人件費も増加しており、利益を圧迫している状況である。
- ・観光のお客様も多いが、国道沿いのディスカウント大型店で買い物をしてくられる方が多いのが現実です。

小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、北陸新幹線開業効果の需要一巡に加え、物価高騰による消費マインドの委縮などから、厳しい経営環境が続いている。しかし、店舗別、業態別の動向をみると、多くの店で経営努力もあってそこそこの売り上げをカバーする例が多く、全体では持ち直しの動きを強めている。ちなみに、近畿経済産業局が公表するR7年5月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）は、身の回り品、衣料品が不振ながら、食料品などが堅調に推移したことなどから、前年同月比で18.5%上昇し、79億66百万円となった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中4項目で改善傾向、2項目で悪化傾向を示している。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲29.2→今期▲22.4、仕入単価（逆指数）が前期66.7→今期75.5、採算が前期▲43.8→今期▲47.9、資金繰りが前期▲38.3→今期▲32.7、従業員数が前期▲10.0→今期▲4.9、業況が前期▲43.8→今期▲36.7となっている。ただ、先行き（R7年7～9月期）については、6項目3項目で改善予想となっており、多少の足踏み感が出始めている。

一方、今期の新規設備投資については、設備投資を実施した企業が8.2%あり、前期（1～3月期：6.3%）をやや上回ったものの、その勢いは弱い。ただ、先行き（R7年7～9月期）については、何らかの投資を予定する企業が14.3%みられ、この先、幾分持ち直すことが予想される。

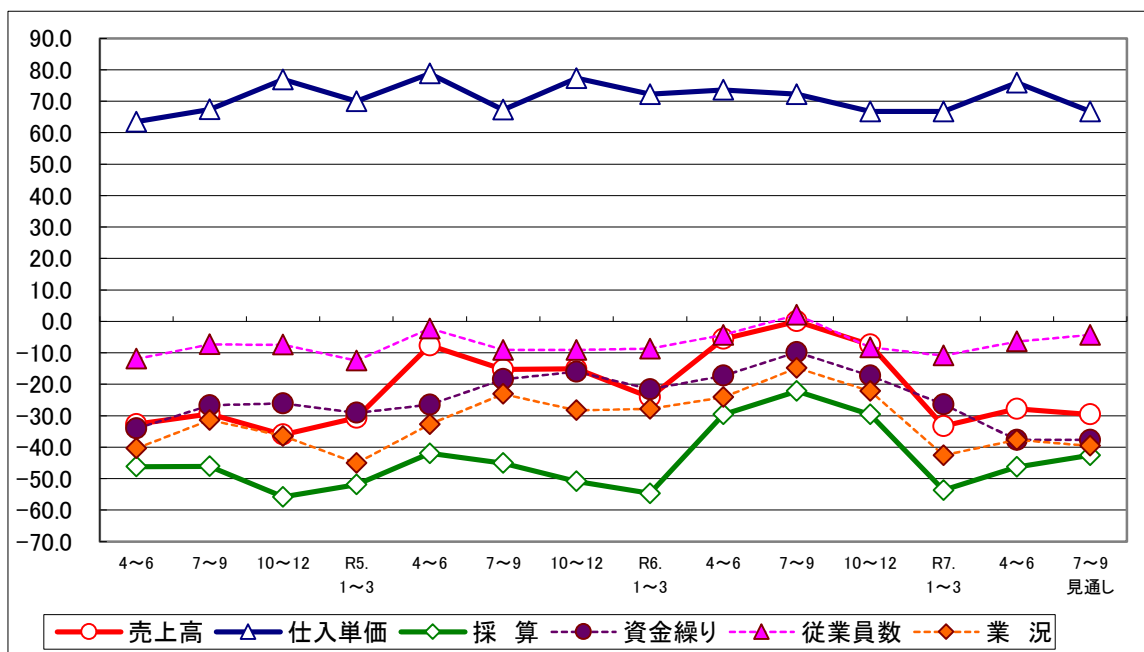
最後に、経営上の問題点については、「仕入単価の上昇」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト22.4%、1位～3位までに挙げた企業44.9%となった。その他の見解としては、「人件費が増加している」、「大型店との競合激化」など、先行きへの不安感を訴える声が目立っている。

サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

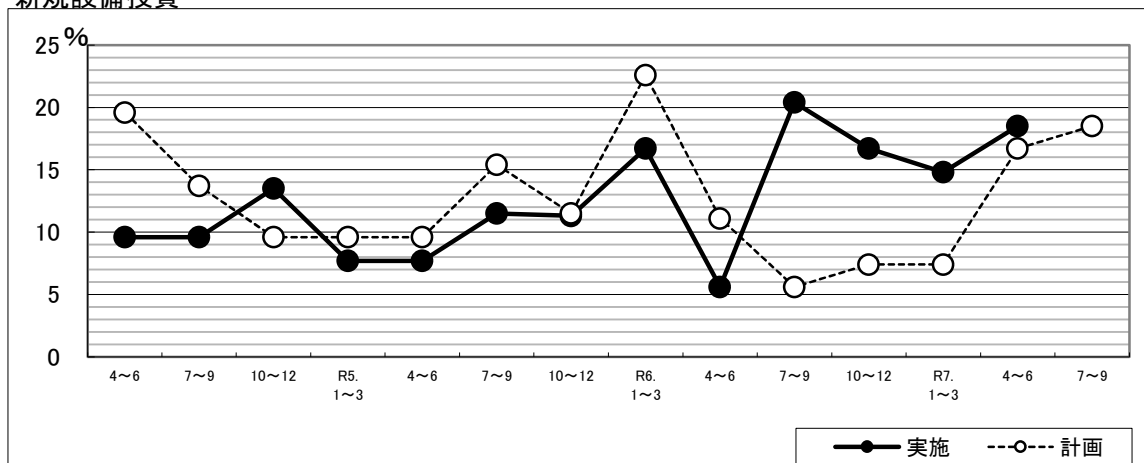
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
4～6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7～9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10～12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1～3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4～6	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7
7～9	▲ 15.3	67.3	▲ 45.1	▲ 18.4	▲ 9.1	▲ 23.1
10～12	▲ 15.1	77.3	▲ 50.9	▲ 16.0	▲ 9.1	▲ 28.3
R6.1～3	▲ 24.1	72.2	▲ 54.7	▲ 21.6	▲ 8.7	▲ 27.8
4～6	▲ 5.6	73.6	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 4.3	▲ 24.1
7～9	0.0	72.2	▲ 22.2	▲ 9.8	2.1	▲ 14.8
10～12	▲ 7.4	66.7	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 8.3	▲ 22.2
R7.1～3	▲ 33.3	66.7	▲ 53.7	▲ 26.4	▲ 10.9	▲ 42.6
4～6	▲ 27.8	75.9	▲ 46.3	▲ 37.7	▲ 6.4	▲ 37.7
7～9見通し	▲ 29.6	66.7	▲ 42.6	▲ 37.7	▲ 4.3	▲ 39.6

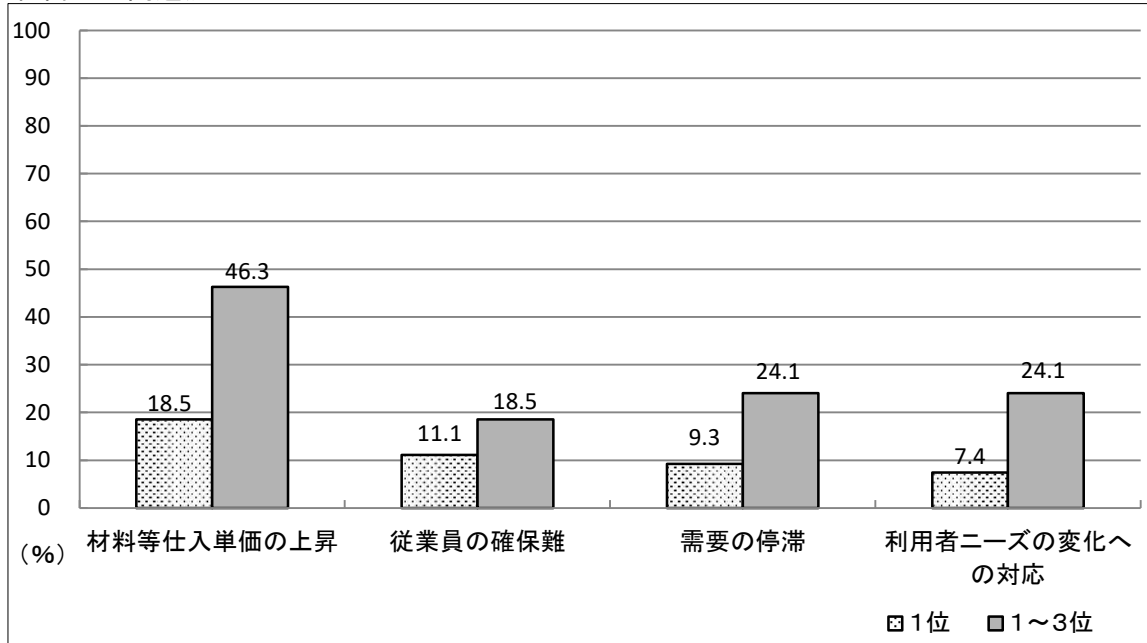
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・新幹線効果も落ち着き、2年目が勝負となる。県市地域等の協力がこれからも必要となる。
- ・物価の高騰により、これ以上の仕入単価が上がることを危惧している。
- ・人口減少や高齢化の影響により、来店客数がわずかに減少し、売上もやや減少傾向にあるが、地域の常連客に支えられ大きな変動はない。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する第3次産業活動指数（季節調整値）をみると、2025年5月のサービス産業活動は、「金融業、保険業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」などが低下した一方、「運輸業、郵便業」、「生活娯楽関連サービス」などの業種が上昇したことから、前月比0.6%上昇し104.4と2か月連続の上昇となった。

最近の特徴として、2024年12月、2025年1月、2月と上昇の後、3月は低下、4月、5月と2か月連続の上昇となったものの、3か月移動平均値で見ると2か月連続の低下となるなど、引き続き予断を許さない状況が続いている。このため、第3次産業活動指数の5月の基調判断については、「一進一退」に据え置かれている。なお、今後り動向としては、物価上昇による取引量への影響などについて、注視する必要がある。

こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中4項目で改善傾向を示した。ただ、業界全体としては予断を許さない状況にあるとの見方が支配的である。項目別の指数は、売上高が前期▲33.3→今期▲27.8、仕入単価（逆指数）が前期66.7→今期75.9、採算が前期▲53.7→今期▲46.3、資金繰りが前期▲26.4→今期▲37.7、従業員数が前期▲10.9→今期▲6.4、業況が前期▲42.6→今期▲37.7となっている。また、先行き（R7年7～9月期）については、改善予想3項目、悪化予想が2項目、横ばいが1項目となり判断にバラツキがみられる。

一方、今期の新規設備投資については、設備投資を実施した企業が18.5%あり、前期（1～3月期：14.8%）をやや上回っている。また、先行き（R7年7～9月期）については、何らかの投資を予定する企業が18.5%みられ、今期並みの水準に持ち直すことが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「材料等仕入れ単価の上昇」（1位に挙げた企業18.5%、1位～3位までに挙げた企業46.3%）への指摘が最も多い。個別の見解として、物価高による仕入れ価格の高騰や、人口減少、高齢化問題を懸念する声がみられた。

全国・福井景気動向 令和7年4月～6月（対前年同期比：DI値）

D I 値	100～15.1	15～0.1	0.0	-0.1～ -15	-15.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	横ばい	やや悪化	悪化

業種別 / 項目別		売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
全国	全体						
	DI値	▲ 9.6	75.0	▲ 24.7	▲ 13.9	▲ 3.6	▲ 17.1
	製造業						
	DI値	▲ 8.5	70.4	▲ 22.9	▲ 15.5	▲ 4.5	▲ 16.9
	建設業						
	DI値	▲ 11.9	79.9	▲ 20.3	▲ 6.0	▲ 4.0	▲ 10.1
	小売業						
	DI値	▲ 18.2	72.7	▲ 32.1	▲ 20.1	▲ 4.2	▲ 28.2
	サービス業						
	DI値	▲ 3.2	76.9	▲ 21.9	▲ 11.6	▲ 1.8	▲ 13.0
福井	全体						
	DI値	▲ 20.0	76.2	▲ 41.5	▲ 26.8	▲ 0.7	▲ 31.1
	製造業						
	DI値	▲ 5.4	80.6	▲ 35.1	▲ 18.9	11.1	▲ 21.6
	建設業						
	DI値	▲ 20.0	72.0	▲ 28.0	▲ 4.0	0.0	▲ 20.0
	小売業						
	DI値	▲ 22.4	75.5	▲ 47.9	▲ 32.7	▲ 4.9	▲ 36.7
	サービス業						
	DI値	▲ 27.8	75.9	▲ 46.3	▲ 37.7	▲ 6.4	▲ 37.7

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。